

『釜淵のカツパ』
 いつの頃か、釜淵に河童が住むようになり、「二口を往来する旅人を苦しめていたんだと。或る日それを聞いた力自慢の旅人が夜中に行ってみると、岩の上に小男が手まねをしたと。」「やつ」と声をかけて四つに組んだが、あつという間に旅人の体は宙に舞い、ドボンと釜淵に沈んでしまったんだと。



「民話」という言葉は戦後になってから使われ始めたといわれています。『広辞苑』では民話を「民衆(みんしゅう)の中から生まれ伝承されてきた説話、民譚(みんだん)」と説明しています。「人々の生活の中から生まれたもの」、そして「口伝えて語り継(つ)がれてきたもの」、この2点が共通して、民話の意味するところとして記されています。

秋保の民話には伝説や伝承話が多いのが特徴です。秋保に根付いた言い伝えや語りの中にある場所や家、人物を今日に照らし合わせると、なるほどと一致するお話がたくさんあります。

心の抛(よ)りどころとして「ふるさと」の意味や価値が、非常に大きなものになってきている今日、秋保の民話のパンフレットとともに、四季折々が楽しめる秋保郷を逍遙し、心の「ふるさと」にしてみたいはいかがでしょうか。

秋保の民話の伝承活動として、定期的に民話語りを行っています。どうぞお立ち寄りください。

- 場 所 秋保・里センター(観光案内所)
- 活動日 毎月第2、第4日曜日 10時30分～11時30分

馬場の民話 ～大滝周辺～

いっぺみるべ 秋保 馬場の民話 ～大滝周辺～

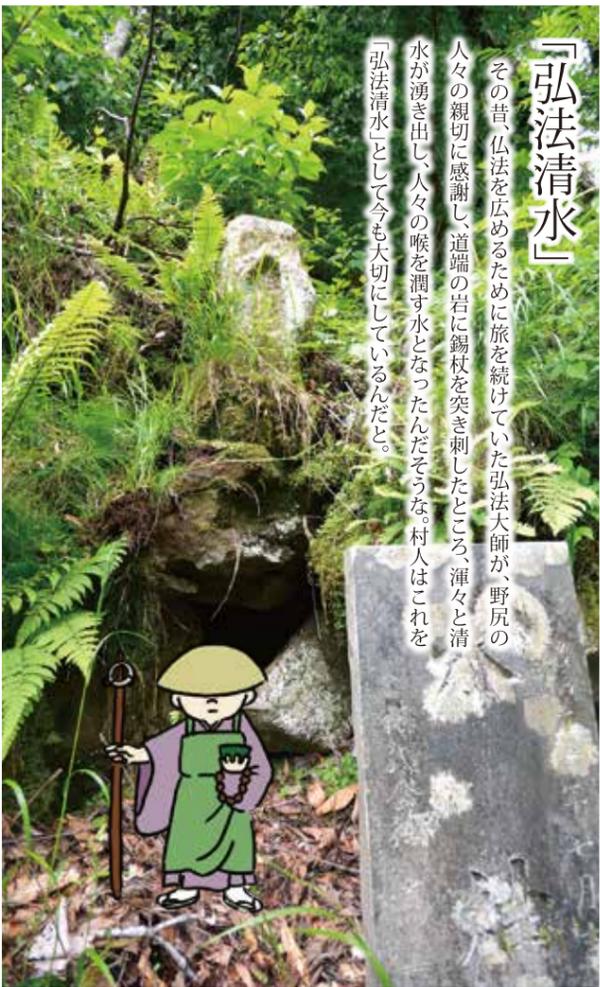
企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市
 連絡先：秋保総合支所総務課(022-399-2111)
 秋保市民センター(022-399-2316)

往古千年の街道に、語り継がれる物語がある。
 自然、歴史、喜び、悲しみ・・・
 馬場・大滝周辺を歩いて巡る、
 昔語りの舞台への旅。

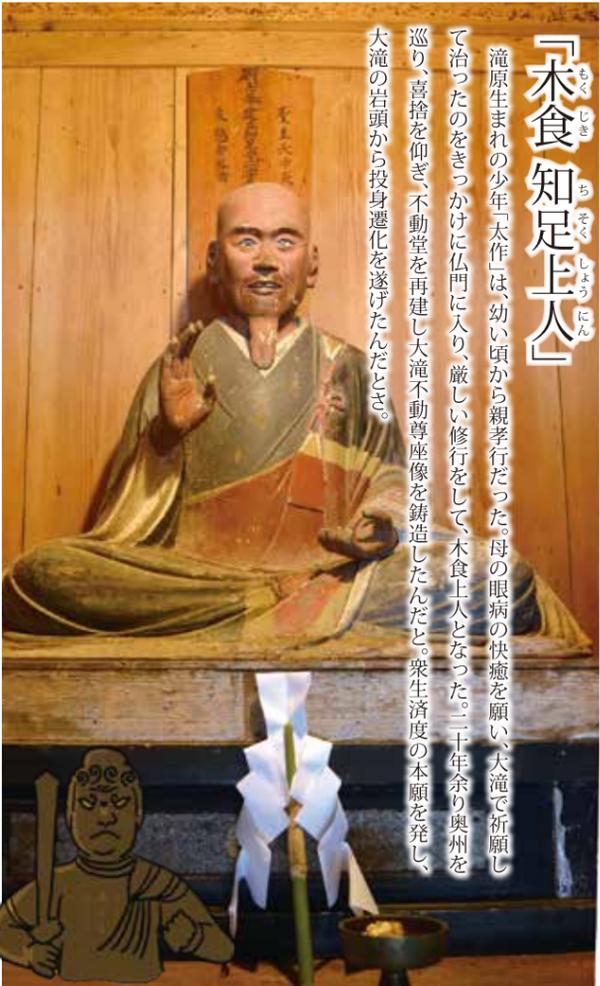
掲載されている情報は、平成30年3月現在のものです。

訪れてみたい秋保
二口街道ツアー 62

No.18



『弘法清水』
 その昔、弘法を広めるために旅を続けていた弘法大師が、野尻の人々の親切に感謝し、道端の岩に錫杖を突き刺したところ、渾々と清水が湧き出し、人々の喉を潤す水となったんだそう。村人はこれを「弘法清水」として今も大切にしているんだと。



『木食知足上人』
 滝原生まれの少年「木食」は、幼い頃から親孝行だった。母の眼病の快癒を願って、大滝で祈願して治ったのをきっかけに仏門に入り、厳しい修行をして、木食上人となった。二十余年、奥州を巡り、喜捨を仰ぎ、不動堂を再建し大滝不動尊像を鑄造したんだと。衆生済度の本願を発し、大滝の岩頭から投身遷化を遂げたんだと。

